



家族経営型スマート農業の一貫体系 「新十津川モデルの構築」を目指して

稲作

スマート農業で
目指す地域の姿

- ・主な経営形態は家族経営であり、2040年には農家戸数が半減する見込み
- ・家族経営による規模拡大に対応するため、スマート農業技術をフル活用
- ・コンソーシアムによる実証成果の普及を目指す

地域での取組



学生向けスマート
農業見学会の様子

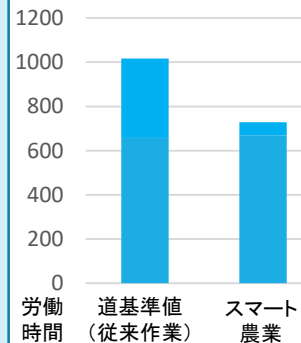
町を代表機関とした、新十津川町スマート農業実証コンソーシアムにより「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」を活用し、スマート農機の導入による春作業の効率化や米の品質向上について令和元～2年度にかけて実証

実証試験では、ロボットトラクターや直進アシスト田植機等による作業と基準作業との所要時間の比較を行い、労働時間の削減効果の検証等を実施

試験で得られた知見を町内に普及するために、農業者や学生に対するPR活動と並行して、直進アシスト田植機や農薬散布ドローンの導入支援を町として行い取組を加速化

取組の効果

春作業 所要時間の比較



スマート農業の 導入により・・・

育苗・移植等の春作業の
うち28.3%の時間を削減

削減した時間を
活用して

施設園芸（トマト）の作業
時間を確保し増産体制を構築

収益が1,170千円増加

活躍が期待される農機



直進アシスト田植機

GNSS位置
情報を利用し、
自動でステア
リングを修正し直
進する機能が
あり、少人数で
の田植えが可
能に



農業用ドローン

自動飛行に
よる農薬散布
の作業効率化
と適期防除に
よる品質と収量
の向上が期待
できる

もっと知りたい

新十津川町ホームページ上で、「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト実績報告書」が公開中です。

新十津川町 2年間のスマート農業

検索

ホームページで
スマート農業の
魅力を発信中！

空知スマート農業推進室
情報提供・協力：
新十津川町産業振興課